

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	循環病態科学領域 循環病態内科学教育研究分野 氏名 酒井峻太郎
指導教授氏名	富田泰史
論文審査担当者	主 査 齊藤敦志 副 査 富山誠彦 副 査 大門 眞
<p>(論文題目) Low creatinine clearance is a risk factor for severe cardioembolic stroke in Japanese female patients (クレアチニンクリアランスの低下は日本人女性における重症心原性脳塞栓症のリスク因子である)</p>	
<p>(論文審査の要旨) 900 字程度 本論文は、慢性腎臓病患者における腎機能と予後の関連における男女の違いを明らかにすることを目的とした臨床研究に基づく。非弁膜症性心房細動を有する心原性脳塞栓症患者 640 例を対象として、入院時のクレアチニンクリアランス (CCr) を指標に 3 群に分類し、入院時の NIHSS score、body mass index、CHADS₂ score と退院時の modified Rankin scale (mRS) を男女に分けて後方視的に解析した。 入院時 NIHSS、退院時 mRS は CCr<30ml/min の L-CC 群で有意に高値であった。多変量解析では CCr の低下は入院時重症化 (NIHSS≥8) および退院時機能的予後不良 (mRS≥3) の独立したリスク因子であった。男女別の解析において女性では全体と同様に CCr の低下は入院時重症化 (NIHSS≥8) および退院時機能的予後不良 (mRS≥3) の独立したリスク因子であったが、男性では CCr の低下と入院時重症化および退院時機能予後との関連は認められなかった。 本研究において、CCr の低下した心原性脳塞栓症患者、特に女性においては入院時の重症度が高く、退院時の機能的予後も不良であることが新たに確認された。さらに性別による違いは算出に体重が含まれる CCr では認められたのに対し、体重を含まない eGFR では認められなかった。女性の心原性脳塞栓症患者における CCr の低下は重症度および機能的予後不良のリスク因子であることが示唆される。また、本論文では、本研究から得られた新規知見の原因や関連する臨床的特徴について、body mass index の低値やエストロゲンの脳虚血保護作用、腎機能障害をもつ症例に対する抗凝固療法の併発症の視点から十分に考察されており、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	In Vivo 2023年